

2014 年度 政策決定の政治経済学（担当：小西秀樹）
学期末試験問題（試験時間 60 分，持ち込み不可，70 点満点）

問題 1 以下の設問に答えよ。（合計 35 点）

- (1) Besely と Coate による「政府の失敗」の定義を，(i) 「パレート改善」という用語を用いて簡潔に述べ，(ii) その問題点を説明せよ（各 5 点）。
- (2) 「予算制約のソフト化」とはどのような現象をいうのか。「コミットメント」あるいは「コミット」という用語を用いて，説明せよ（5 点）。
- (3) 「合理的無知」とは，(i) どのような現象をいい，(ii) 政府の失敗を論じる上でどのような役割を果たすか，説明せよ（各 5 点）。
- (4) 政策決定について同じ利害を共有している集団でも，圧力団体として政治的に活動するよう組織できるとは限らない。このような集合行為問題は，(i) なぜ生じるのか，(ii) どのようなすれば解決できるか，あるいはどのような特徴のある集団であれば解決しやすいと考えられるか，説明せよ（各 5 点）。

問題 2 以下の文章を読んで，設問に答えよ。（合計 15 点）

利益集団政治における政策決定について，共通エイジェンシーモデルを用いて考察しよう。今，すべての国民は製造業（M），農業（A），一般市民（V）のどれか 1 つのグループだけに必ず属している。政府が選択する政策 p は Y （TPP に参加する）， N （TPP に参加しない）のいずれかであり，それぞれの政策が実施されたときに各グループが享受する利得（金銭単位で測られている）は下記の表のように表されている。社会的余剰は，各グループの利得の合計である。

p	製造業（M）	農業（A）	一般市民（V）	社会的余剰
Y	100	20	180	300
N	80	60	120	260

それぞれの集団は圧力団体を組織し，暗黙の献金スケジュールを政府に提示することによって政策決定を自らに有利な方向へ誘導しようとしている。ある集団が提示する献金スケジュールを (a, b) で表そう。 a は政策 Y が実施されるときに支払われる献金額， b は政策 N が実施されるときに支払われる献金額である（ただし， $a, b \geq 0$ でなければならない）。より具体的に，集団 M ， A ， V のそれぞれが提示する献金スケジュールを $(C_M, 0)$ ， $(0, C_A)$ ， $(C_V, 0)$ とする。各集団は，上の表で示された利得から実際に支払うべき献金額を差し引いた利得を最大にするように献金スケジュールを選んで提示する。

政府は圧力団体が提示した献金スケジュールを見た上で，政策を決定する。その際，政府は獲得する献金の合計だけでなく，実現する社会的余剰にも配慮する。すなわち，政府は

$$\theta W + (1 - \theta)C$$

が最大になるように政策を選ぶとしよう。ここで W は社会的余剰， C は献金の合計を表している。 θ は，政府が社会的余剰をどれだけ配慮するかを示すパラメータであり， $0 \leq \theta \leq 1$ を満たしている。

- (1) (i) すべての集団が圧力団体を組織し、献金を通じた政治的競争に参加できる場合と、(ii) 集団 V だけが参加できない場合において、政府が TPP へ参加する均衡が実現するために θ が満たすべき条件を求めよ (各 5 点)。
- (2) 上記の結果にもとづいて、政府の失敗を回避するという観点から、社会的余剰に配慮する政府を選出することの意義について論述せよ (5 点)。

問題 3 以下の文章を読んで設問に答えよ (合計 20 点)。

シグナリングモデルを用いて、選挙が無駄な予算の削減にもたらす影響を考察しよう。政治家には、現職、挑戦者にかかわらず、2つのタイプ H と L がある。 H は利益集団と癒着しやすいタイプ、 L は癒着しにくいタイプである。有権者は外見からは政治家がどちらのタイプかを識別できない。何の情報もないとき、政治家がタイプ L である確率を 0.1 とする。政治家が 1 期間政権をとったときの支配者レントはタイプにかかわらず R 万円、下野したときの利得はゼロである。歳出削減の選択肢は、10 億円と 0 億円のいずれかである。タイプ H の政治家が 10 億円の歳出を削減するには、利益集団からの献金減少などにより 1000 万円の政治的費用を覚悟しなければならないのに対して、タイプ L の政治家の場合には、100 万円の政治的費用で済む。一方、有権者は歳出削減と同額の利得を享受するものとし、また彼らはタイプ L である確率の高い政治家に第 2 期の政権を任せたいと考えている。

ゲームのタイミングは、次の通りである。

- (i) Nature が第 1 期の現職のタイプ $t \in \{H, L\}$ をランダムに選ぶ。
- (ii) 自分のタイプを知る現職が、第 1 期の歳出削減 (億円) $m \in \{10, 0\}$ を選択する。
- (iii) 選挙が始まる。Nature が挑戦者のタイプ $t \in \{H, L\}$ をランダムに選ぶ。
- (iv) 有権者が第 1 期の歳出削減額を観察した後、現職を支持するか、挑戦者を支持するかを決める。無差別なときは、有権者に名前が知られている現職が有利で、確率 0.5 で再選される (ただし、 $0 < p \leq 1$)。
- (v) 選挙の勝者が第 2 期の政権をとり、第 1 期と同じ支配者レントを手に入れる。

なお、政治家の持つ割引因子は 1 とする。

- (1) タイプ L の現職だけが再選される分離均衡が実現するために R が満たすべき必要十分条件を求めよ (5 点)。
- (2) どちらのタイプの現職も再選を果たしうる一括均衡が実現するために R が満たすべき必要十分条件を求めよ (5 点)。
- (3) 以上の結果にもとづいて、有権者の利得という観点から、支配者レントの功罪について論述せよ (10 点)。